

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	社会学専攻 博士前期課程	方式	科目
		A 一般	英語

受験番号 _____

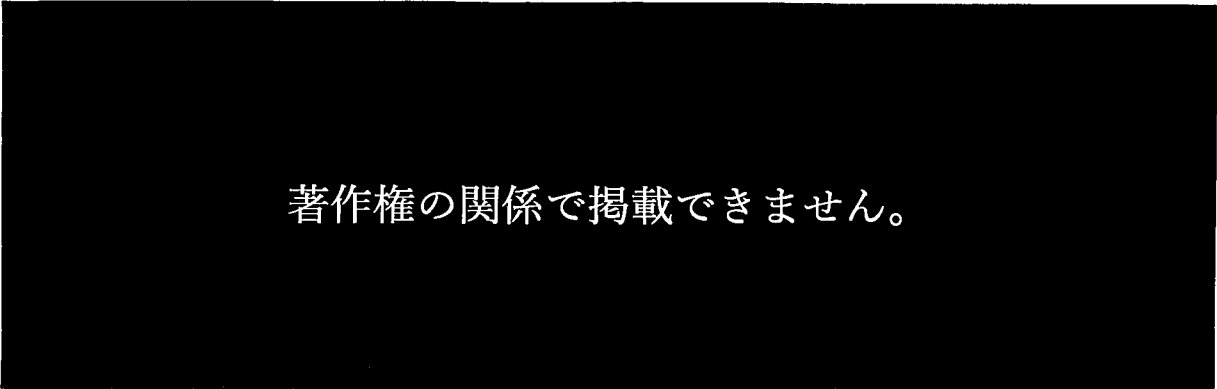
氏 名 _____

(2 - /)

辞書使用不可

《 解答別紙 》

問題Ⅰ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。



Horne, C. (2001) Sociological perspectives on the emergence of social norms. In M. Hechter & K.-D. Opp (Eds.), *Social Norms*. Russell Sage Foundation, pp.21-22.

※一部改変あり

*impersonal = 非個人的な

問 1. 空欄 a に当てはまる 1 語を文中から抜き出して答えなさい。

問 2. 下線部①を日本語に訳しなさい。

問 3. 下線部②として文中に挙げられているものを 3 つ、日本語で答えなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	英 語

受験番号 _____

氏 名 _____

(2-2)

辞書使用不可

《解答別紙》

問題II 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

著作権の関係で掲載できません。

*online dating オンライン上の出会いの場、マッチングアプリ *hookup culture 精神的な絆のない短期的な性関係をもつこと
*Tinder generation ティンダー世代 (Tinder は有名なマッチングアプリ) * a hook-up (nuit chaude) ナンパ
*sapped エネルギーが弱められる *Trojan horse トロイの木馬
*Eva Illouz ヘブライ大学社会学教授

(Marie Bergström (2022), *The New Laws of Love, Online Dating and the Privatization of Intimacy*, Polity Press. より一部改変)

問1 下線部(1) online dating が a mirror of contemporary society 現代社会を映し出す鏡であるとはどのようなことか、具体的に述べなさい。
問2 下線部(2)以下の、online dating への第一の見方とはどのようなものか、文章をまとめなさい。
問3 下線部(3)以下の、online dating への第二の見方とはどのようなものか。文章をまとめなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	社会学専攻 博士前期課程	方式	科目
		B 社 会 人	英 語

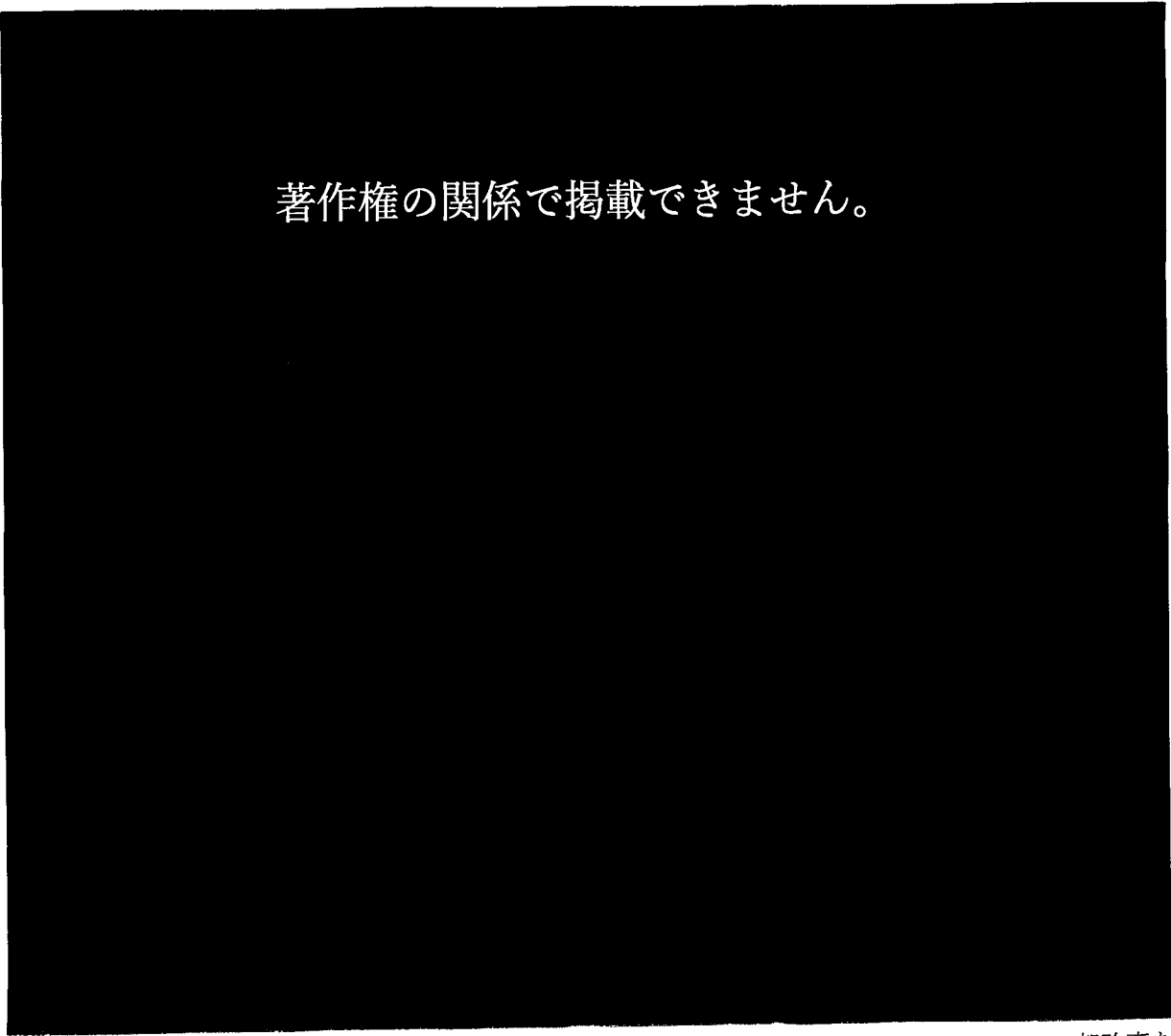
受験番号 _____

氏 名 _____

(2 - /)

英和辞書使用可 ・ 電子辞書不可 <<解答別紙>>

問題I 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。



[Giddens, A., Sutton, P. W. *Essential Concepts in Sociology*, Polity (2021) pp. 8-10 *一部改変あり]

- 問 1 下線部 (1) の World System Theory を本文に即して説明しなさい。
- 問 2 下線部 (2) の acceleration of globalization from the 1970s の内容を本文に即して説明しなさい。
- 問 3 下線部 (3) を日本語に訳しなさい。
- 問 4 下線部 (4) を日本語に訳しなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	社会学専攻 博士前期課程	方式	科目
		B 社 会 人	英 語

受験番号 _____

氏 名 _____

(1 - 2)

英和辞書使用可 ・ 電子辞書不可 《解答別紙》

問題 II 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

著作権の関係で掲載できません。

*union パートナー結合

(F. Goldscheider, E. Bernhardt, T. Lappegard, 2015, The Gender Revolution: A Framework for Understanding Changing Family and Demographic Behavior, *Population and Development Review* 41(2):207-239. より一部改変)

- 問1 下線部(1)は日本語で「第二の人口転換」と呼ばれる。それはどのような状態を指すか、文中から要約して述べなさい。
- 問2 下線部(2)の「革命」は下線部(1)に続いて起きている大きな変化である。それはどのようなものか。
- 問3 下線部(3)を日本語に訳しなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	社会学専攻 博士前期課程	方式	科目
		A 一般	専門

受験番号 _____

氏名 _____

(5 - 1)

《解答別紙》

問題Ⅰ 次の各問に答えなさい。

問1 下記の語群から2つを選び、それぞれ説明しなさい。解答欄の冒頭に選んだ語の番号を記すこと。

- ① メリトクラシー ② 機能主義 ③ パターナリズム ④ ナラティブ・アプローチ
⑤ オリエンタリズム ⑥ 意図せざる結果 ⑦ ホブズ的秩序問題 ⑧福祉国家レジーム論

問2 下記の書籍の著者名を下の選択肢から選び、記号で答えなさい（書名の後の数字は原著刊行年を示す）。

- a. 『言葉と物』(1966) b. 『スティグマの社会学』(1970) c. 『ヌアー族の宗教』(1956)
d. 『近代世界システム』(1974) e. 『近代とはいかなる時代か』(1993) f. 『経済と文明』(1966)
g. 『ハマータウンの野郎ども』(1977) h. 『心の習慣』(1985) i. 『管理される心』(1983)
j. 『孤独なボウリング』(2000)

【選択肢】

- (あ) A・R・ホックシールド (い) M・フーコー (う) P・ウィリス
(え) A・ギデンズ (お) E・エヴァンズ＝プリチャード (か) E・ゴフマン
(き) R・ベラー (く) E・ウォーラーstein (け) R・D・パットナム
(こ) K・ポランニー (さ) C・レヴィ＝ストロース (し) J・バトラー

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 2)

《解答別紙》

問題Ⅱ 次の文章を読み、下の問いに答えなさい。

ナショナリズムはプラス・シンボルと捉えられることもあれば、マイナス・シンボルと捉えられることもあり、評価の開きが非常に大きい。ある時は「自決（自己決定）」「国民主権」「民主主義」「民族解放」等と結びつくものとして肯定的評価を受け、ある時は「排他的」「独善的」「狂信的」「好戦的」等々の語と結びつけて否定的に評価される。近年では、どちらかというとな否定的評価の方が優勢だが、昔から一貫してそうだったわけではない。そこでまず、そうした評価の揺れの経過を大まかに跡づけてみたい。

フランス革命から19世紀を通じて、そして20世紀に入ってから第一次世界大戦後の「民族自決」、第二次世界大戦後から1960年代にかけての植民地独立といった時期においては、①「国民国家」の形成およびナショナリズムを肯定的に評価する見解はごくありふれたものだった。もっとも、ナショナリズムがファシズムや領土拡張主義と結びついた事例もあり、それに対しては批判的な見方が優勢だったが、そうした「大国」のナショナリズムに対比される「小国」——ないしこれから国家を獲得しようとしている民族——のナショナリズムや民族解放運動に対しては同情的な見方が多かった。ヴェトナム戦争期におけるヴェトナム民族運動が世界中の多くの人々の共感をかきたてたのはその代表例である。もう少し最近でも、たとえばソ連からの独立回復を目指すバルト三国の民族運動や、ソ連の覇権からの自立を求める東欧諸国のナショナリズムなどについて、「肯定的なナショナリズムのあらわれ」とする見解は、相当広い範囲に共有されていた。

このように比較的最近まで広く見られた肯定的評価が一挙に大きく後退した契機としては、1990年代の旧ユーゴスラヴィア各地の内戦をはじめとして、世界各地で「非合理的な情念」とみなされる運動による暴力的衝突事件が頻発したことが大きい。体制移行諸国や発展途上国における暴力的紛争だけでなく、西欧諸国でも、移民排斥を唱える極右ナショナリズムの高まりなどが、良識ある人の眉をひそめさせるようになった。こうした中で、むしろ「ナショナリズムの克服」が多くの人によって唱えられるようになった。

【…中略…】

といっても、論壇全体がナショナリズム否定論一方で固まっているということではない。自ら誇らしく「ナショナリスト」を称する人も一部にはいる。また、排他的な右派ナショナリズムには批判的でも、「健全な愛国心」は肯定すべきものだと考えたり、偏狭でない「リベラルなナショナリズム」がありうると考える論者も少なくない。こういうわけで、ナショナリズムないしそれに類似する現象の評価は人によって大きく分かれており、論争的である。

(出典：塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』岩波書店、2008年、182・184。中途部分を省略し下線を引くなど、一部改変した。)

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5-3)

《解答別紙》

問1 下線部①に関して、「国民国家」という近代的な観念の発生についてはヨーロッパが果たした主導的な役割を無視できない。同地域において、それがどのような社会状況で形成されたかを説明しなさい。なお、その際には以下の用語を必ず使用し、該当する語の初出の箇所に下線を引くこと。

革命、共通の言語、出版活動の活発化

問2 ナショナリズムに対する肯定論と否定論の揺れについて述べたこの議論は、日本社会を事例とする場合にも当てはまる議論だと思うか。具体的な事例を示しつつ、あなたの見解をその根拠も含めて提示しなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 4)

《解答別紙》

問題Ⅲ 以下の図表1～3に示された情報に関して、以下の問いに答えなさい。

問1 図表1のみに基づいて、日本では、いつ頃、どのような変化が生じたのかを説明しなさい。

問2 図表2と図表3（次頁）から読み取れることを説明しなさい。そして、それらの点を考慮に入れると、図表1が示す変化はどのような意味を持つのかを説明しなさい。

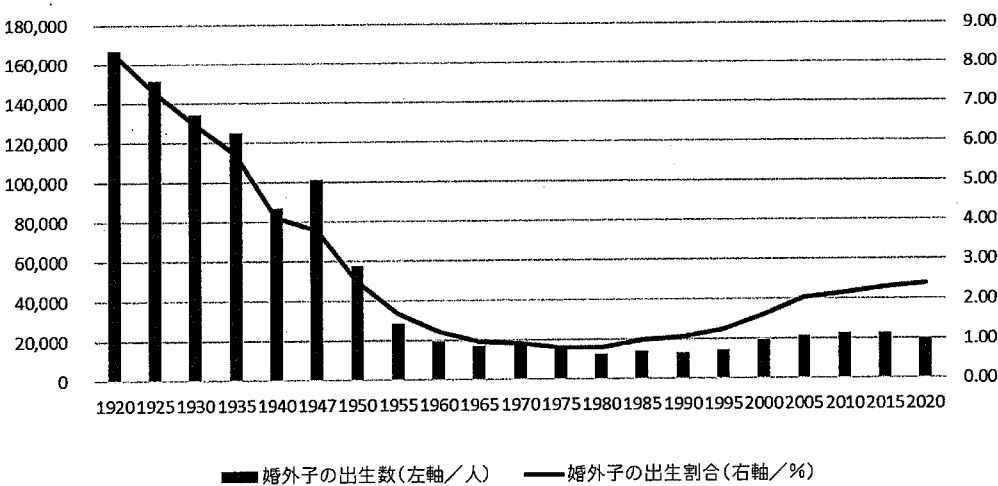
図表1 妻の生まれ年別出生児数割合および平均出生児数：1890～1970 年生まれ

妻の生まれ年	調 査 年 次	出 生 児 数 割 合（％）					平均出生 児数（人）
		無子	1人	2人	3人	4人以上	
1890～1895 ¹⁾	1950	11.3	8.3	7.8	8.9	63.8	4.8
1895～1900 ²⁾	1950	9.9	8.7	8.0	9.3	64.0	4.8
1900～1905	1950	9.0	8.6	8.4	9.7	64.3	4.8
1910～1915	1960	7.6	9.8	11.2	14.8	56.6	3.93
1920～1925	1970	7.9	11.3	24.1	28.2	28.5	2.77
1927～1932	1977	3.5	11.0	47.0	28.9	9.7	2.33
1932～1937	1982	3.6	10.8	54.2	25.7	5.7	2.21
1937～1942	1987	3.1	10.1	55.3	25.8	5.7	2.22
1942～1947	1992	3.8	9.0	57.9	24.2	5.1	2.18
1947～1952	1997	3.3	12.4	56.4	24.4	3.5	2.13
1952～1957	2002	4.2	9.3	53.7	28.9	4.0	2.20
1955～1960	2005	5.7	11.1	50.3	29.0	3.8	2.15
1960～1965	2010	7.5	13.8	52.0	23.6	3.1	2.01
1965～1970	2015	9.9	18.1	51.3	18.2	2.5	1.86

調査年次が1970年以前は総務省統計局『国勢調査報告』，1977年以降は国立社会保障・人口問題研究所『出産力調査』および『出生動向基本調査』による。『国勢調査』は既婚女性，『出生動向基本調査』は初婚どうし夫婦について。妻の年齢45～49歳（調査時）。1) 妻の年齢55～59歳（調査時）。2) 妻の年齢50～54歳（調査時）。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」（2024年1月9日）
(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=T04-23.htm)

図表2 婚外子の出生数と婚外子割合の変化（1920～2020 年）



厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）『人口動態統計』による。1947～70 年は沖縄県を含まない。割合は出生総数に対するもの。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」（2024年1月9日）より作成。
(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=T04-18.htm)

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		A 一 般	専 門

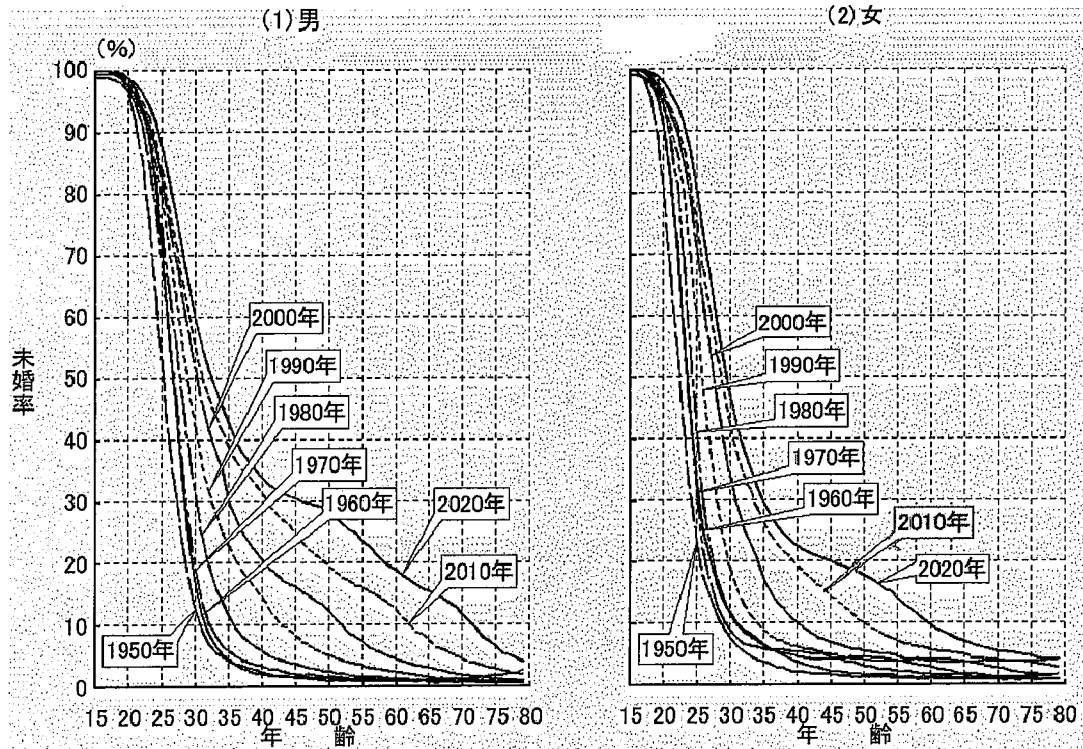
受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 5)

《解答別紙》

図表3 性、年齢別未婚割合（1950-2020年）



総務省統計局『国勢調査報告』による。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」(2024年1月9日、一部改変)

(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=G06-05-1.gif)

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		B 社 会 人	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - /)

《解答別紙》

問題Ⅰ 次の各問に答えなさい。

問1 下記の語群から2つを選び、それぞれ説明しなさい。解答欄の冒頭に選んだ語の番号を記すこと。

- ① メリトクラシー ② 機能主義 ③ パターナリズム ④ ナラティブ・アプローチ
⑤ オリエンタリズム ⑥ 意図せざる結果 ⑦ 文化資本 ⑧ 福祉国家レジーム論

問2 下記の書籍の著者名を下の選択肢から選び、記号で答えなさい（書名の後の数字は原著刊行年を示す）。

- a. 『新しい女性の創造』(1963) b. 『スティグマの社会学』(1970) c. 『ヌアー族の宗教』(1956)
d. 『近代世界システム』(1974) e. 『近代とはいかなる時代か』(1993) f. 『経済と文明』(1966)
g. 『ハマータウンの野郎ども』(1977) h. 『心の習慣』(1985) i. 『管理される心』(1983)
j. 『孤独なボウリング』(2000)

【選択肢】

- (あ) A・R・ホックシールド (い) R・D・パットナム (う) P・ウィリス
(え) A・ギデンズ (お) E・エヴァンズ＝プリチャード (か) E・ゴフマン
(き) R・ベラー (く) E・ウォーラーSTEIN (け) B・フリーダン
(こ) K・ポランニー (さ) C・レヴィ＝ストロース (し) J・バトラー

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		B 社 会 人	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 2)

《解答別紙》

問題Ⅱ 次の文章を読み、下の問いに答えなさい。

ナショナリズムはプラス・シンボルと捉えられることもあれば、マイナス・シンボルと捉えられることもあり、評価の開きが非常に大きい。ある時は「自決（自己決定）」「国民主権」「民主主義」「民族解放」等と結びつくものとして肯定的評価を受け、ある時は「排他的」「独善的」「狂信的」「好戦的」等々の語と結びつけて否定的に評価される。近年では、どちらかというとな否定的評価の方が優勢だが、昔から一貫してそうだったわけではない。そこで先ず、そうした評価の揺れの経過を大まかに跡づけてみたい。

フランス革命から19世紀を通じて、そして20世紀に入ってから第一次世界大戦後の「民族自決」、第二次世界大戦後から1960年代にかけての植民地独立といった時期においては、①「国民国家」の形成およびナショナリズムを肯定的に評価する見解はごくありふれたものだった。もっとも、ナショナリズムがファシズムや領土拡張主義と結びついた事例もあり、それに対しては批判的な見方が優勢だったが、そうした「大国」のナショナリズムに対比される「小国」——ないしこれから国家を獲得しようとしている民族——のナショナリズムや民族解放運動に対しては同情的な見方が多かった。ヴェトナム戦争期におけるヴェトナム民族運動が世界中の多くの人々の共感をかきたてたのはその代表例である。もう少し最近でも、たとえばソ連からの独立回復を目指すバルト三国の民族運動や、ソ連の覇権からの自立を求める東欧諸国のナショナリズムなどについて、「肯定的なナショナリズムのあらわれ」とする見解は、相当広い範囲に共有されていた。

このように比較的最近まで広く見られた肯定的評価が一挙に大きく後退した契機としては、1990年代の旧ユーゴスラヴィア各地の内戦をはじめとして、世界各地で「非合理的な情念」とみなされる運動による暴力的衝突事件が頻発したことが大きい。体制移行諸国や発展途上国における暴力的紛争だけでなく、西欧諸国でも、移民排斥を唱える極右ナショナリズムの高まりなどが、良識ある人の眉をひそめさせるようになった。こうした中で、むしろ「ナショナリズムの克服」が多くの人によって唱えられるようになった。

【…中略…】

といっても、論壇全体がナショナリズム否定論一方で固まっているということではない。自ら誇らしく「ナショナリスト」を称する人も一部にはいる。また、排他的な右派ナショナリズムには批判的でも、「健全な愛国心」は肯定すべきものだと考えたり、偏狭でない「リベラルなナショナリズム」がありうると考える論者も少なくない。こういうわけで、ナショナリズムないしそれに類似する現象の評価は人によって大きく分かれており、論争的である。

(出典：塩川伸明『民族とネーションー ナショナリズムという難問』岩波書店、2008年、182-184。中途部分を省略し下線を引くなど、一部改変した。)

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		B 社 会 人	専 門

受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 3)

《解答別紙》

問1 下線部①に関して、「国民国家」という近代的な観念の発生についてはヨーロッパが果たした主導的な役割を無視できない。同地域において、それがどのような社会状況で形成されたかを説明しなさい。なお、その際には以下の用語を必ず使用し、該当する語の初出の箇所に下線を引くこと。

革命、政治の主体、共通の言語、公教育の整備、出版活動の活発化、一体感

問2 ナショナリズムに対する肯定論と否定論の揺れについて述べたこの議論は、日本社会を事例とする場合にも当てはまる議論だと思うか。具体的な事例を示しつつ、あなたの見解をその根拠も含めて提示しなさい。

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春季	社会学専攻 博士前期課程	方式	科目
		B 社 会 人	専 門

受験番号 _____
氏 名 _____
(5 - 4)

《解答別紙》

問題Ⅲ 以下の図表1～3に示された情報に関して、以下の問いに答えなさい。
問1 図表1のみに基づいて、日本では、いつ頃、どのような変化が生じたのかを説明しなさい。
問2 図表2と図表3（次頁）から読み取れる情報を視野に入れると、問1の解答にはさらにどのような説明が追加できるか述べなさい。

図表1 妻の生まれ年別出生児数割合および平均出生児数：1890～1970年生まれ

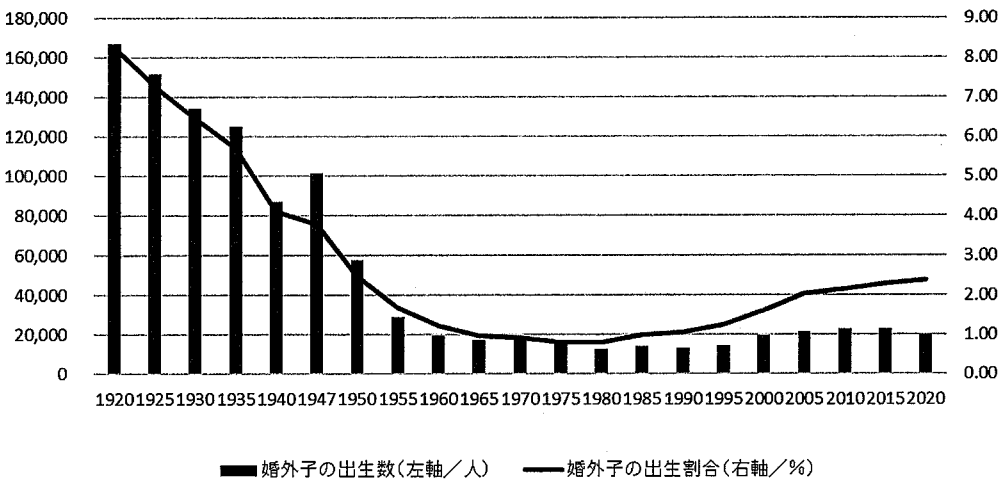
妻の生まれ年	調査 年次	出生児数割合（％）					平均出生 児数(人)
		無子	1人	2人	3人	4人以上	
1890～1895 ¹⁾	1950	11.3	8.3	7.8	8.9	63.8	4.8
1895～1900 ²⁾	1950	9.9	8.7	8.0	9.3	64.0	4.8
1900～1905	1950	9.0	8.6	8.4	9.7	64.3	4.8
1910～1915	1960	7.6	9.8	11.2	14.8	56.6	3.93
1920～1925	1970	7.9	11.3	24.1	28.2	28.5	2.77
1927～1932	1977	3.5	11.0	47.0	28.9	9.7	2.33
1932～1937	1982	3.6	10.8	54.2	25.7	5.7	2.21
1937～1942	1987	3.1	10.1	55.3	25.8	5.7	2.22
1942～1947	1992	3.8	9.0	57.9	24.2	5.1	2.18
1947～1952	1997	3.3	12.4	56.4	24.4	3.5	2.13
1952～1957	2002	4.2	9.3	53.7	28.9	4.0	2.20
1955～1960	2005	5.7	11.1	50.3	29.0	3.8	2.15
1960～1965	2010	7.5	13.8	52.0	23.6	3.1	2.01
1965～1970	2015	9.9	18.1	51.3	18.2	2.5	1.86

調査年次が1970年以前は総務省統計局『国勢調査報告』，1977年以降は国立社会保障・人口問題研究所『出産力調査』および『出生動向基本調査』による。『国勢調査』は既婚女性，『出生動向基本調査』は初婚どうし夫婦について。妻の年齢45～49歳（調査時）。1)妻の年齢55～59歳（調査時）。2)妻の年齢50～54歳（調査時）。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」（2024年1月9日）

(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=T04-23.htm)

図表2 婚外子の出生数と婚外子割合の変化（1920～2020年）



厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）『人口動態統計』による。1947～70年は沖縄県を含まない。割合は出生総数に対するもの。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」（2024年1月9日）より作成。

(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=T04-18.htm)

2024年度 大学院入学試験 問題用紙

春 季	社会学専攻 博士前期課程	方 式	科 目
		B 社 会 人	専 門

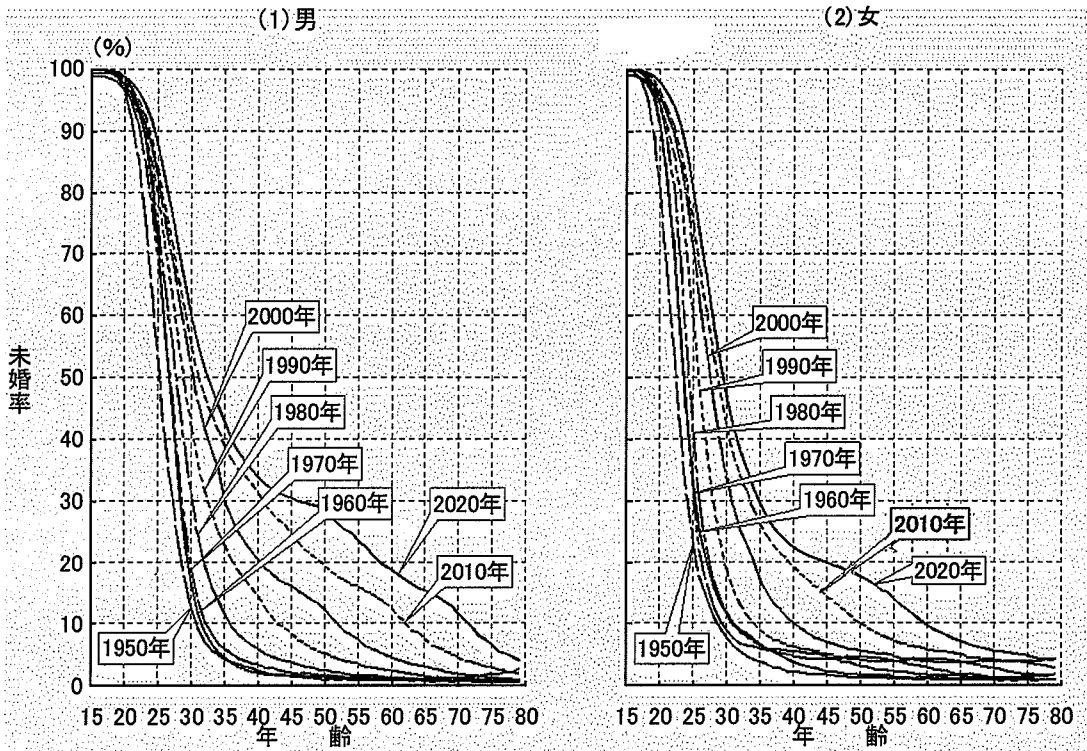
受験番号 _____

氏 名 _____

(5 - 5)

《解答別紙》

図表3 性、年齢別未婚割合（1950-2020年）



総務省統計局『国勢調査報告』による。

出所：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」(2024年1月9日、一部改変)。

(https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2023RE.asp?fname=G06-05-1.gif)